1 型糖尿病患者のオーラルケア

サンスター株式会社オーラルケア事業本部製品開発部

野村 慶雄

Oral care for type 1 Diabetes Mellitus patients

Oral Care Headquarter R&D, SUNSTAR Inc.

Yoshio Nomura

我が国における糖尿病患者は、1型糖尿病患者と2型糖尿病患者を合わせて218万人である。平成9年に実施された「糖尿病実態調査」によると、糖尿病が強く疑われる人は、690万人、これに糖尿病の可能性を否定できない人を合わせると1,370万人にも上っている。1型糖尿病は、膵臓のβ細胞の破壊を伴い、インスリン欠乏により高血糖を主徴とする疾患である。1型糖尿病は、全糖尿病患者の数%（約10万人）で、0～18歳までの小児人口10万人当たり4～5人と言われている。1型糖尿病患者は、1日に1～2回血糖値を自己測定し、自ら2～3回インスリンを注射しなければ血糖値を維持できない。

1型糖尿病患者は、歯周病発症頻度が高く、アメリカの報告（P.A.Moore et al. J.Periodontol.1999）では、24歳以下の患者では4mm以上の歯周ポケットを有する割合が12%であり、加齢とともに増加し、45歳以上では約60%の患者が4mm以上の歯周ポケットを有している。また、プロービング時の出血はどの年齢においても約70%見られる。NHANES IIIの調査結果では、糖尿病患者の約半数が歯周病に罹患している。このことを考えるならば、小児期に発症する1型糖尿病患者のオーラルケアを早期から実施することは、歯周病の発症を予防する上で重要である。しかし、我が国においては、カリエス治療を受け入れる医療機関はあっても、歯周病治療あるいはそのメンテナンスを受け入れる機関は必ずしも整備されているとは言えない。サンスター歯科保健振興財団の附属千里歯科診療所は、大阪府・大阪市・堺市・兵庫県の小児慢性特定疾患治療研究事業の委託診療機関として、1型糖尿病患者とりわけ若年者の歯周病治療ならびにメンテナンスを実施している。

我々は、全国の「つばみの会」（1型糖尿病患者の親睦団体）の1型糖尿病患者の歯周病治療ならびにオーラルケアを受け入れる医療機関のネットワーク作りを提案している。1型糖尿病患者は先に述べた歯周病のリスクを抱えているばかりでなく、低血糖対策としての補食で不定期に糖分を摂取することから、カリエスのリスクも高いと考えている。

本講演では、我が国における1型糖尿病患者、とりわけ若年者の歯周病罹患状況と治療上の注意事項とともに、1型糖尿病患者が社会的に置かれている背景を確認することから、1型糖尿病患者のオーラルケアの重要性を指摘したい。加えて、全国の歯周病認定医の所属する医療機関が、1型糖尿病患者の歯周病治療とオーラルケアの受け入れ機関として、各自治体に申請し1型糖尿病患者のオーラルケアを受け入れることを提案したい。